



八五
6043
4



初秋
七夕
生身玉
濯
虫
芭蕉
蘭
木槿
色鳥
心木散

文月
殘暑
玉祭
相撲
鷄
萩
女郎花
炸草
小鷹
芋

下少牛

一葉
秋扇
燈籠
稻妻
露
萩
荊萱
花野
崩築
鞋



桐
秋螢
花火
廉
霧
薄
檜
鳴
葛
月



横山重

名月	九月十三夜	駒込	雁
礎	茵	楓	紅葉
野山色	重陽	紅葉	木實
秋田	九月盡	雜秋	

小町躰第三

秋

初秋

秋まぬや吹風音や名菊句	徳元
涼しとれ早や始る川風うら	良春
風乃秋の物くられ早や秋の光	重次
す風やと初ま秋乃露くくひ	光重
月よりとれねと風受するやと初秋	安知
音えんやと秋風のうらとをら	智徳
秋のうらとをらと初秋のうらとをら	清等
節の音うらとをらと初秋のうらとをら	重元

と物吹ハ流の印しきく秋の風
涼凡やうふいたらも化秋の光

政之
立園

文月

秋事ねと世ふあき秋乃文月外
文月外あきしこあさるるぬれ
文月小かくれぬやと行か
吾筆かも物見しうや文月夜
うとくくろろ文月のいろさ
文月の影とうらとや丸祝
文月うらと家秋風のたうら

弘永
幸和
知徳
道淳
良徳
吉泰
素言

秋三

文月やしとひそあはと物のお
文月の物言れ家乃たうたれ
秋風のほとさうよ文月夜
文月母較の小書や天津早
文月やうらと一筆うら乃秋

友貞
好与
順三
昌房
立園

一葉 付柳散

一葉れあ書道や秋のうけ
櫓權かうと一葉や風たうら
一葉乃あ奇かうとや秋のうけ
宇治川ふうらと一葉の茶ふり

一正
重方
頼富
文川

一葉のやの〜てるる自れ船あらし
 雄は松柳乃氣力落葉の舟
 利刀の柳よりわの系秋の色
 一葉の影船〜あり月
 宗雅
 一正
 有哉
 三園

桐

一葉の〜の相重と〜免れ
 桐の葉も波をか〜井戸の水
 井乃あり舟〜桐の一葉うか
 松の葉も臨みわ〜木履の舟
 との〜名めとも〜と〜落葉
 友貞
 成安
 守種
 徳元
 共友

四四

七夕

仲人の鶴々母うめと〜か
 舟〜ものう女ま〜なるや二星
 七夕ののらう〜と〜や宵の月
 たまり〜わあ〜葉と志〜天
 編書口七夕れ〜わやの紋
 七夕乃寝〜の〜わり〜較
 案〜るわ七日七夜〜の奇
 わ〜星や明〜の〜い〜を
 ぬれ雲や〜を山鳥〜男〜
 白雲
 貞徳
 同
 同
 宗富
 意敬
 善静
 善入
 今

銀川の玉れくわし遊や星か
 美者者や孫くふ二川の星も
 りよの女うし仲人をもうし男七夕
 ぬきそくた衣やひら二川星
 ひわいの帯やけしくと物うし
 菟こものちぶふぬや女七夕
 和合せりこや陸陽の二川けり
 わいそそのけすたうらや男七夕
 年ハあまきと歩しりそり男七夕
 系りしうらぬとわこくうの女七夕
 星あいのをこといわこくうの女七夕

成政
 知徳
 云明
 信盛
 重以
 定清
 吉武
 正盛
 保友
 直假
 宗勝

映五

初く牛ハ恋のめも病うねまりの
 流りハの別ふひくわうしら髪
 夕よといしけそ布織や女七夕
 夜すれ子帯紙一夜うあし川星
 わやとわうれねもひい河星二川星
 阿いそめし年やうそハ星乃教
 松風乃あうそや星うし日向琴
 七夕や帯にをれ神もくく
 多かりくわ貴代の恋此奇乃歌
 阿しを好しきあつぬもしに女史星
 東三時ひくわもなうや二川星

可全
 同
 重嶺
 景言
 同
 定親
 親十
 同
 信世
 和平

天かろくらしきり久し一河がけ
 ありぬるや思ひと念れゆり星
 にきとせは神もせく世とわ女史星
 我んくも久し一かりぬ女史星
 梶の系はくしつや糸織たらし書
 河琴の織女はあれ秘曲り那
 星とほしお世もようこらしきりこれ
 空しと色あいの不忠織よ星れ占
 七夕は星乃いひりわ半乃玉
 琵琶琴やこれ色糸ういの系れ糸
 織布と七夕の糸入よ女たさりこ

同 資方 定用 宗雅 好子 友貞 同 同 同 同 昌房 常辰

秋六

水とくぬ中や樂乃星もろく
 少と川と海りてありや天津星
 星とけり一ういひ河さか光れ
 わし時のえねぬ夜いふ女史星
 しそせもろく花や糸ういの系しとさ
 めろりあり星や妻せれ焼おら
 産そありと貞女とわろくねとこ星
 天川とくし一れ糸やうろいほし
 星のわみあり糸おさしそ河うり川
 じう一男今と色あいのきり女たさりこ
 七夕とと糸わろくしん舎者定離

同 同 立圃 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

たまりては跡のまらうらうらふ乃言 因

残暑

紗子ぬりぬりさや炎の火行をり 一日

秋扇

秋来ては消しもたわつさうか 三政

風の思わいとれとれぬ扇のれ 正盛

色とせは寝もせくつさ扇の邪 親信

手拍子やあしりしあしと鼓 紫言

秋風の言に摸り紙圍り邪

秋堂

秋風舟にちも鹿見すり堂の邪 貞室

静といふ文字小ものころ堂の邪 良久

と画とくくさえぬ堂や佛乃火 安明

生身玉

かろくくくからいささ玉 昌房

玉祭 付施 餓暑 送火

牙と控てうらうら旅餓暑は佛事

ゆわわわわわとさうら旅餓暑 信元

善根れうらわいけさや水施餓暑 知徳

汗一水に殺書てとよせうとふか
 秋わらう露や下玉還まうら
 菊泣やうら月ちる玉戸つり
 下久のけしむわじとひく玉糸
 雲落しをわらうへうりもろ玉まうら
 物乃わいれ秋こそまきされ水せうら
 栲待ハやうとらじう一紙こい茶うれ
 掃約ハ冥途わうせんのみ向う那
 水玉とまうらうや秋れ河旅銀匙
 袖うらわがらうと露の玉まうら
 病と老ね風のたらくい玉まうら

宗之
 自愛
 木端
 定清
 親宣
 春良
 一景
 一雪
 徳元
 利清
 正重

秋八

玉まうら念佛も踊拍子うれ
 孝りの子こそ實れ玉まうら
 聖霊やそれあつくのまうらと
 早り火やうらうらうら松う崎
 聖霊れ花じけうらや水施銀匙
 とらり火紙とて免てうら玉まうら
 法花經うらわらうら吉如の玉まうら
 とらうらうら我目小んてぬ玉糸

宗雅
 未知
 常辰
 同
 昌房
 立圃
 同
 同
 同

燈籠
 冥途うら遠うら寺れ揚灯籠
 重頼

知ろくぬ何うわやけり新燈籠
くけ法師いそけしきり灯籠
それとるよあし人の新燈籠
目小いみくまはきり新燈籠
世いあられか紀人もあや揚灯籠
重治 言辰 則友 友之 由貴

花火

行れ筒へこれとせしる花火か
日業くゆこと下と紀新火うれ
夕されと雲より勝しき火う飛
筒の中あつ日つわび花火うな
安利 貞伸 重良

秋九

おれららたもゆきひくくハ花火か 未安

躍

奇いつき小町おしりや伊勢踊
あられしき舞に振りけり躍
よもたゆくやけり踊の扇うれ
さきやまきと節りり人下りあや踊
口まひいあつて小町うねりうあ
若願いじり男う伊勢おしり
りう身世いゆりあつ小町踊る
おやしつゆると小町おしり
貞蔵 助誓 信元 守長 重房 安成 重頼 貞徳

相撲

多岐とまやい魚とまらお撲也
 後赤舟阿つらましお丸(同)相撲
 いと破城人かとうらそ大お撲
 丁のくまこ志うくま世の勝お撲
 折つまお物そらうくま負お撲
 かこ屋とわらうくま相撲
 へげそらふんもわいけくまお撲也
 死とじらゆうけやこれお撲
 のしらのとらまれ怪のくまうか
 関お撲とらくたれやわのくま
 本包
 後佐
 氏重
 友昌
 政也
 宗三
 胤序
 重以
 保友

決十一

且れやりと名乗もあつと関お撲
 りとお撲突いと左右(の)さけり
 負お撲くくそれとらうくま
 一りてくせそらうくま見ぬ関お撲
 名乗てそ身なりそれなり勝相撲
 めらりわのくまらわそのくまお撲也
 中つ家とくまや又くまうくま
 多川くま紀の関とらうお撲く相
 多のくまゆめとくまわしけ相撲
 ぬしけいんまのくまけつ乃くまうか
 まけ腹とくま方とけお撲く相
 富長
 重員
 一亞
 成政
 春良
 同
 本也
 好道
 文索
 久任

まれうらみうらみといたとゆふうか
政之
わりせぬいさるれものかり破お積
昌房

稻妻

いらつられおしんけらるわうらひ星
良徳

廉

秋廉れうら節の移や想更念
宗立

うららといふゆらうとや廉の念
貞徳

耳安ぬとりわ藤と廉乃念
重頼

しぬしうらうらうらふたふ海山れ
良景

淋しうらふのうらうらうの移
康吉

秋三

節の音に似たりうらうら秋の廉
慈仙

鉄炮の廉は打かれらうらうら
松久

我うらうらとを節のうら廉
冨長

おれりうらうらとを節のうら廉
道軒

小男廉やみとくうらうら下紅糸
政之

狩人の孫の節吹とうらうらか
宗雅

志のうらうらとを廉やびうらうら京
清平

廉の元も紅糸み深糸糸糸うら
昌房

出

本意叶や吹いらうら風とま
重頼

露

七更れ玉やましく響く花乃露
 珠粒玉の併の原れ葉乃露
 みうけらわ木織みかゝ露れ玉
 ままの人の玉と産るや袖の露
 露丸ささる月るるや衣れ玉
 あうとあうもやさの露乃玉
 袖のらくひすひし露や玉たはれ
 年くく小多わけすくや袖の露
 白露や衣にらんくや衣れ玉

吉久
 吉札
 長善
 光孝
 元清
 定盛
 長式
 久忠

秋十四

我うの露を玉やるぬく
 露玉の月かから草乃露
 珠粒玉の何そととは袖の露
 玉とらる露や木葉世一物
 神垣や露も満干れ玉津崎
 力より露るやまき袖の露
 水入の露やみまの筆乃海
 白露や夕八朝れ空の星

意
 意
 同
 常辰
 友貞
 定親
 有哉
 三圃
 同

霧

さうやくもほれとくみう萩の萩
平潤の景行なりし萩れし志
淡萩やうき萩もなほ松乃風

友貞
親十
清園

萩

あやうき萩の萩の萩の萩
はわじりらや萩角麻鳴草
さう風小萩ねと志くろ小萩うか
秋葉れ字とけうき萩乃萩んれ
おろ萩りし萩れかろや萩の萩
おろらうの萩生とく——萩麻鳴草

宗法
岸
志
政之
昌房
立圃

萩 村尾花

色をわくくろき萩の萩
風吹のみかかり萩の萩
らう萩れ玉ひせよ萩と志
まひうせく風のわやけう尾花
乱連わら萩れ下くやうういと
萩や萩萩萩やまういれ萩と志
白萩れんくろ萩乃尾んかう萩
くろいよこの風吹やう萩と志
あつせうん萩れ萩乃うう萩

清一
一日
成次
信元
政次
重良
保友

とくも花れもや身丸糸すまき
 仲前よりしつりやもくか糸房
 綿より多糸やもくか糸房
 花わらうのや尾花う袖と刺さるの
 一本花房ハ奪り花取多うれ
 わらうしつりやもくか糸房
 かしらうの糸房も糸房よいとすまき
 かうらうひて廣袖とひらうか糸房
 道之 太源 是雲 富長 立女 定親 正辰 立圓

蘭

もとまにひらうか糸房も糸房よいとすまき
 康庸

山の錦時ハ全蘭の花見う那
 秋の将もとこ勅許う花う那
 去日野や花の匂いと蘭奢待
 散礼ととらんれ花取ハ花見せま
 花のそれハ花見う那
 弘采 一百 塵哉 貞利 吉里

女郎花

一河公に移るハ女郎花
 男山れうしつりやもくか糸房
 旁の海れそ玉姫うとくか糸房
 花とこ山の花見う那
 重頼 定重 信元 守長

とく病やむれんさし女帝苑
ちかむるの小町果てきまふ
定行
昌房

荊萱

あつらわとありらる人も無道心
しきくことあるわあつて世の花
あつらわはれしとてさうさうあつら
咲花乃あつらわうはる野さるま
道水
尚後
為門
定行

檜

朝うりわびうし男れあふる海
定房

卯れ割れ小咲あさうかや六門の玉
檜わらうせしうりも花乃えん
朝うりわびうしとてさうさうあつら
朝うりわびうしとてさうさうあつら
後直
吉孝
嶺利
立園

木槿

まきこれ花風小おもしむを飛
あつらわ何れとてさうさうあつら
好与
立園

秋草

紅葉下り葉やささうしわづ綿

出づきとらふよ小車此花乃露
 とらふとらふ秋のひかり弱つとき
 小車れらるやもれく人こも
 蝶のわや風おわれる駒はうさ
 なる人もあをせ強か下し仙翁花
 匂はえらる嘆業あや花の程
 秋やうははましくあはさうり
 わさあは秋の異形衣敷う花
 新よわい人いこもらんうら
 うらうらとらふよも葉はらうら
 一滴の露うらうらうらや仙翁あ

甫
 幸
 齋
 信
 徳
 露
 翁
 可
 親
 徳
 親
 信

白盤と一帯うらうらやれらる
 秋もくは赤たかうら葉はらう
 葉菊は花火やうらうら若狐

嶺利
 同
 同

花野

川人の道あそひかたを花うれ
 花のたの望ふはうらうら
 廣き野も一花あや花じら
 風の子れもとあそひかたを花うら
 絵にわけて極彩あは花野うら
 咲のたの望ふよみるは花人の夢

梅盛
 意敬
 光有
 知徳
 方孝
 重因

秋の聲や万葉集れ侍の聲
 花れつゝ風や小奇乃新たま
暎文 ふうりつゝ野を花くはるらけ
日 友の名のまうらうはく花のりし
 立圃 同 同 同

鳴

まうらくはらくはまきれ羽音か
 看經いふらうや鳴の鳥れいふ
 宗雅 章和

色鳥

早うらうらうもせしとらぬ山落れ
 孝亮

梢かり鶉の目とぬら夕うか
 ねまきくわは菊つゝとわ羽林の露
 海りまろ小色わ木とれ鳥らのと
 鳥わらうらうや南方しとせ果
 重貞 松安 宗雅 立圃

小雀鳥

目の肉も珍びくらくら小雀鳥
 けり葉れさきくよらわ小雀鳥
 めらりあひくらくわそれら鶉鷹
 ましつゝあやうらうらうらうら
 花もみはあはく小雀鳥下とら
 秀重 徳元 春倫 重足

よのうなみ酔てわ赤き種乃実
子孫とりよりのこと越後種
古種いり一尺さけの實
河ありと一交ふありや江種乃實

徳元
貞伸
智詮
親信

月

月くは雲こそあけれ十八夜
梵天乃ゆりり燈籠の空乃月
天竺とりよもや月丸巻の元
せんさういりり男の月丸舟
皆人の初る種れこり秋乃月

貞徳
同
同
同

月と日空酒杯乃空列やまらり種
月望目れめらり車とどけいり種
月の入天れ戸口り頼もりか
わたり夜状いせ空もや空れ月
三界も二階もてり月丸丸
月られうくろい雲のありきり種
陰りりくや空乃月丸丸
多や月丸丸んんよる種
空もてりも日空一乃月丸丸
山乃端や鏡臺とけり夕月夜
白月よかきり雲の空の月

同
春可
る二
玄礼
幸和
同
同
同
同
同
同

月よはみくくりまわめわを月夜
 朝よの光を照らすとくりりり月
 弦かきもも老りりわらわら月夜
 月のあけまよわらわら風まらか
 西(ち)り月や弘誓のつらき
 ひらき野の火さうらきこれ老りりれ
 こく月れ海舟りけりわらわら
 けまは地の産うら月をいふあうれ
 水の中月天地和合のむらりりれ
 柄乃がらうらびとくしといひ月夜
 万灯りりりり一燈らるる月

同
 同
 同
 同
 氏重
 正量
 宗崩
 照星
 正友
 正次
 久家
 宗後

浪よそは揚遠なりまら水れ月
 西山のわらわら月れらるれ里
 かさるれふらわらわら月れれ
 とくちや下(に)ららわらら月
 山の字と二(り)かき(り)月もら
 闇(り)も人(の)まら(り)月夜
 りん丸か月(り)む(ら)れ老(り)れ
 夜(り)の字月(り)る(ら)は(れ)の字
 月(り)の字月(り)る(ら)は(れ)の字
 村(の)神(か)う(ら)き(り)月(り)る(ら)は(れ)の字
 越(後)海(を)る(ら)は(れ)の字月(り)る(ら)は(れ)の字

貞室
 政公
 同
 重供
 昌意
 文勝
 信全
 弘永
 同
 後考
 伊伯

曇りたる天理さいつり秋の月
 玉送やんかさうらな月れ剣
 大木のわらわつげくや月乃剣
 下とてら歌さうらや月れ海
 魚さてわらうん香る月月の友
 阿つて屋小福さうら月や美木葉
 くまら雲は行らうらもさ月の良
 えまの同姓やまわあ月の
 白にわさく月や雲井れを阿らさ
 ぢらわら月や心乃がうらいよね
 月らにじうよ入月や金の的
 親太

目らうめい世男とめら月えか
 月の入跡いふ昂是空う那
 あれ猫や清くさうら浦れ月
 湯の山り入月や物と一まらり
 獵せねと月やえされわら小船
 じうら風舟ゆく鷲首の月の舟
 月の船と水斗やうら人の海
 けり月よなまわらか常らうらさ
 わらうら月とみくらうら水うか
 まん月の照や二千里八千里
 かこ一うらんと一万里の月えう那
 高敦
 空存
 言辰
 道之
 重賈
 三信
 河内
 正次
 安静
 貞恒
 元政
 三成

見あうわやうあみあう紀月此歌
 月彩や波やれとすのみこ乃浪
 水此月や夫とて下中井くは
 西じつくあつ月るる婦りこれ
 わしとたすじや難波のうれ月
 今月のらうりすら夜まゆか
 とのくともまぬの月此月えう那
 びう一舟や山乃隈むけく月斗
 月彩よまの君の寝のうの浪
 ろろ人や雲波あま下月此歌
 名おやとすともつそよ月乃下ね

曾 保 意 離 紹 休 延 命 光 頼
 曾 保 意 離 紹 休 延 命 光 頼

月彩と雲ふまう海や津すら
 天の返る舟り下りわる水の月
 ゆうの戸と海らや月の船あそひ
 天川とこりくくく月舟
 月と見や人のとそくくいり物
 車りくく磨すくくく月此歌
 海らと月えの舟やくく産歌
 月此歌くくくや中此袖くく
 入月やうらひあくく老嵐
 うけゆらまきく産の歌りか
 うくくく白蛇の扇此月

後康 方格 能之 保之 易次 長式 三辰 未竟 正業 助音 友下

かりく世にさるるも月丸くあ
 けし雲や月丸く影のすこき
 天人や瑠璃のいづれと水乃月
 中くさるや晴くれ新月丸
 月小雲あか多や曇る約つた
 月影や足法作くぬ雲乃危
 写りくれ月小あつや新法師
 月小く山くつらき雲やあか露
 宵丸乃の酒あつすか月のさ
 雲ハ棠花秋ハ棠耀丸月見ふ
 屋くく又のわりやささよりの月

久次
 新山
 正信

重良

定行

同

立静

宗利

重香

蔭
 久忠

落

酒のまぬ可盡う空の月
 月やか天下一のたうもの
 市よくその月もす空れうすなり
 とく一丸丸月の名は流る朝霞
 じく一野や控く丸月るる草の露
 月や法師一庵来球う山と際子燈
 空とや雨丸丸月乃あかり
 人新やせいしくすく月丸か
 盃の影りじく丸下戸あり
 月くく浪雲や信かり人くく
 雲下くく幕丸丸物見く月の影

常辰

同

同

同

亮

同

同

同

春重

景言

月の乾うしてはまね際子うか
 山く霞乃世く月を固く絲
 かつとや月の境れう乃紋
 月いり何乾くつまは流れ
 かり流の強山やみく月の匂
 月乾やあうもあふうり道
 肉月やまに糸くるる孫の文
 水産乃乾くみ珠の空乃月
 雪や袋おさまり月れら八幡
 毎にれあうるむる空乃月
 今もくはいつや月乃あぬく

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

わとれとく龍やとけく空乃月
 夜わうもさく月乃あぬく

同 同

名月

雲芳や草名月れきぬうらさ
 名月よ多流くは子天龍寺
 名月れあけし親く草うら
 今もくはあうら月れと骨れ
 今もくはよ名れ末作の秋れ月
 よむあやうらひの月れく
 草もあうらあひの月れく

貞徳 同 重頼 同 豊一 幸和 豊武

か名とくくえ戸中ひそ月此顔
名小きく月此くくや七多羅粉
一とせれうけやまらめてもら月此
奥よりき名のく先此世の月
名くうりの月と深成り重くれ
月此名やうのの毎此まきう
たうよひとと月此の名あふ
稱く見ともやと名と月此う一枕
名月乃世にれもら此の日給う那
じう一世ハクうなるめう秋の月
うと月此顔く今世の日は光

貞室

同

知徳

同

同

同

家重

正置

重供

昌意

^まるれ定今世の月や辛阿の
あはけくするる月やうつ家
しら月や光深此大の
月うら水くく雲や名丸川
名つけさし月此は和や世果丸
是天の名酒なるやまよの月
名月此定ふ心やとまらけ
名月やうと年くく此初なる
名月や日奉一乃奇此顔
似すもあくは似もせのわ所なる
名定と換うう月と丸くく

保友

定清

白云

一白

塵哉

信良

元清

正辰

正友

夕翁

可々

月此名やあまの月の秋風きり親 定親
 若急の名とてくまや月此雲 素言
 秋津別れ名あつた持や空乃月 春重
 末代も名やあまの月一秋 信世
 國くろし今宵と月の名あま 同
 名心くろ源氏うたよ乃秋此月 親十
 名月然うしとさしるあまの月 好女
 粗下ろや詩より酒よりよ此月 好子
 國こそいしとあま月乃親 同
 名いしと横しといしと空乃月 宗雅
 鏡なりは内物系よまの月 同

うそつねとと此れ月の老りて那 兼立
 月にあれと青とびうしとこふ 清原
 名月やびうしとあまの月乃女 未知
 場晴くようくしと名い何空の月 生重
 名きとこの鎮郷といしと月此親 友貞
 名母此のあまの月乃親 同
 名いしと月とすつらと波平の雲 同
 名いしとあまの月いしと水此月 常辰
 名とこの名此徳や埋つる月乃親 同
 名や人の口りもあまの月此雲 同
 名此あまの月いしと河内よあま月 同

新巻名わお懸れやとの月 同
 高き名わらうらみの名わらう月 同
 高ハ花新とそれ名わ秋の月 昌房
 くしうらと月と名わと名新折花 同
 中庸此道ありと名わ一柱の月 同
 日域と秋と一書と月と文園 立圃
 月くは長下よらうら月天子 同
 名わと名紀月わと名と天一位 同
 晴波の名は名と名と名と名と月 同
 名と名と名と名と名と名と名と 同
 清水の名わら平比や室乃月 同

月新ハ十分盡くくよ乃名 同
 名わいとくと名此月わと名と 同
 繪師もわらうらみの月此名と 同
 日域名ん此月此名とくくく名 同
 名とくくくくく月此心や有頂天 同
 名と名と名と名と名と名と名と 同
 新此名は名例の名と名と名と名 同
 明後此月の名と名と名と名と 同
 出給くくくくくの名此月乃名 同
 御巻は名と名と名と名と名と名 同
 名と名と名と名と名と名と名と 同

かつら名れううわ月や十之後
 二子里とせつう月れううう
 丸とよしいけくはさるわわ月
 名い二門母の一字わ宣れ月
 廻文うけとえろあもをの月
 正月のうあ二まこたううう
 根えハ水粟やまわ月の文
 名々字と書けりわはる月
 かそ人給月るわ十やとれ山
 月のあめいうあふんや乾の菊
 産を翁やううの月れ清心神
 同 同 常辰 素言 妻安 親安 同 同 重澄 政之

いう粟う雲ううけううまよの月
 月れあが後撰集うわたそ人弁
 粟やうりそ十日さうくたふ月
 二産の名れ月わ和え乃非何を
 粟とよあいつまあまうよの月
 名小高紀後撰れはれわま月
 名月とよあいつまあまうよの月
 ううううわ粟名月れはすま
 明月のううわわかのかのえ申
 名少一あいつまあまうよの月
 名月れまわまううう粟れる
 同 同 同 同 重園 同 同 昌房 同 友貞 同

かのりい文字ぬれ翅や扇はくり
 小みくろくわこまる厚や一文字
 りんきりやとりしつや袴か書丁の發
 白馬や実宿下りれ文字りりり
 圓くへいこころいかりの使う那
 白馬と浪ううけらるや腹まこ
 月れ船のさちかされくまは雁
 飛馬乃後や目かおの筆れ形
 鷹門の天れ戸ひらや柱の形
 親信
 方孝
 志
 信
 書言
 嶺利
 立園
 同
 同

礎

もてたき横つらく打まわさる
 山麓れきや石乃りさくらや
 心あてまらさるわううんかさる
 月くさる夜の園并のまあさる
 けり衣張る川せとれぬけ拍子
 青くくに打く我ぬまらさる
 ねらる月くさるさるて蝶のうさる
 未綿物うらそと名く不徳う那
 山麓のあひ楯打きさるさる
 わさうさるかさる拍子れ拍子か
 孝友
 貞室
 麿哉
 重頼
 宗畔
 宗之
 誠成
 重以
 宗三
 定成
 玄玖

水う福紙未あみかたに露れ紅葉が
 山昨の赤ましくしきわ下もみら
 酒や河魚の先しもみらぬ人よし
 我と離紙さしころぬら梅お葉
 中より色やのくわし梯紅葉
 露れ故書乃お葉や二重を先
 源中酒う解くや冬ハ紅葉は
 玉垣乃あみ細あうれもみらうか
 錦木とこれわうらんじしもみら
 言みみらるお葉や山乃いりり物
 羽二重ハ河魚のそめぬもみらうか

休甫

重時

貞徳

同

同

政昌

幸和

同

同

宗壽

定門

吾為とく中かしく紅葉うれ
 わきといしころわ羽の下お葉
 先うけや我情多雄れお葉指
 福紙山さし福多しやうす枝
 涼山乃りみらハ園れ錦う那
 わしりしに岩のお葉や立回川
 和園小もわしきまの井のお葉が
 深くまらる河魚やあえ下紅葉
 お葉する山ハしきあしころか
 世中の人さこれとわいもみら
 とにともあはれぬしやお葉指

重頼

同

同

可雲

重良

定行

和年

正信

忠也

盛三

常辰

お葉々れき先分にするお日る那
もみちらるるわわるともよみれ一町由
又欲いころれ是るもみちらるり
りさるるるあやめしれんとりし
川魚り紙るるい紙葉の跡うれ
うつしきもあいま紙のよみちら
今織のあしきかりるる物もち
山川紙理じもみちらるるり
あひ内みわるるい何紙しるる根
実とよみや一車も宿掃もみちら
もみちらるれいろる漆乃るるすお葉

紫言 友貞 親信 同 有哉 政之 宗雅 知徳 瑞行 但秀

年廿二度花や根れと何紙葉
うよ掃もよみハ藝しるる根うか
神匠れあしきの懐し先お葉
りさるるる百千百れいろはる那
りうぬれと山もあき紙のいろと
行く山いさよととるるるいろはれ
さるるねとかりれと露ふいろと
赤うねといいろん木葉の町ぬれ
七葉の楓ハ七町いろとる那
さるるるいいろく小野山れいろは
大師しるるあきれいろとる那

龍之 直之 定親 良徳 正信 同 道三 由氏 重貞 文云 信元

ちりあつとわつ乃種うらいらは
 ちりあつとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 難波津みよなりぬ梅の文葉小
 文葉もわつ乃種うらいらは
 白くして秋ふんそしく文葉これ
 町ぬそ本れ紫衣の文葉これ
 文葉もわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 花よりとわつ乃種うらいらは
 清涼なれわつ乃種うらいらは

知徳

忠利

季吟

一重

棘口

泰重

三辰

由信

昌房

同

同

いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは

同

三園

同

同

野山文

山れいろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 山れいろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは
 山れいろはとわつ乃種うらいらは
 いろはとわつ乃種うらいらは

親信

政長

就武

末安

重陽 付菊

余不^レして^レも^レさ^レあ^レれ^レや^レ菊^レ乃^レ花
玉^レあ^レれ^レの^レら^レく^レや^レ菊^レ乃^レ露
ら^レじ^レあ^レり^レし^レう^レそ^レあ^レれ^レや^レ菊^レ乃^レ水
摘^レの^レら^レせ^レ又^レら^レう^レ菊^レ乃^レ花^レ乃^レ霜
ぬ^レく^レさ^レの^レや^レし^レに^レ菊^レ乃^レ花^レ乃^レ白^レい^レふ
七^レ重^レ八^レ重^レ一^レ重^レや^レ菊^レ乃^レ十六^レ重
金^レ根^レの^レい^レさ^レこ^レう^レ庭^レ乃^レ菊^レ乃^レ露
沈^レ若^レれ^レら^レん^レも^レ白^レい^レれ^レ菊^レ乃^レ花^レ乃^レ水
わ^レき^レは^レら^レら^レよ^レ白^レい^レそ^レら^レや^レ菊^レ乃^レ草
羽^レ露^レの^レら^レく^レや^レた^レら^レう^レと^レ菊^レ乃^レ草

氏朝
宗祐
同
宗富
同
吉久
同
心董
惟貞

秋四十四

かり^レく^レく^レこ^レう^レの^レ月^レ黄^レれ^レ菊^レ乃^レ花
漱^レと^レな^レら^レや^レ言^レ句^レら^レく^レの^レ菊^レ乃^レ花
得^レ湯^レの^レい^レう^レ得^レれ^レ菊^レ乃^レの^レう^レら
命^レ下^レそ^レと^レう^レ人^レ玉^レさ^レく^レや^レ守^レり^レ星
を^レし^レく^レい^レ九^レ曜^レの^レ星^レう^レ菊^レ乃^レ花
礼^レ子^レれ^レよ^レ世^レハ^レ揚^レ貴^レれ^レの^レ菊^レ乃^レ花
人^レく^レれ^レ意^レ我^レは^レも^レり^レて^レ菊^レ乃^レ花
菊^レ乃^レ酒^レ乃^レ下^レ戸^レと^レ上^レ戸^レの^レ測^レ測^レれ^レ
^{迴文}菊^レ乃^レ花^レ乃^レ酒^レ乃^レ下^レ戸^レと^レ上^レ戸^レの^レ測^レ測^レれ^レ
九^レ献^レと^レハ^レく^レよ^レの^レ云^レ菊^レ乃^レ花^レ乃^レ酒
根^レく^レく^レよ^レ花^レ乃^レ酒^レ乃^レ下^レ戸^レと^レ上^レ戸^レの^レ測^レ測^レれ^レ

宗明
貞室
昌意
弘永
秀重
養節
知徳
同

八重一重九百一十ヶけさく此花
 砂そめくけさくぬい測る菊の酒
 うらぬい小斗れ星うましく乃宿
 長いされ丸葉かまわ菊れ露
興文 なうしさく燈菊れくまのま葉か
 ねされ葉下子代すて酒世の中
 せんさの母まなしくあわおとさ葉
 月をとれといわき露れ菊乃露
 恥よまきく松の志りん葉りさ
 淵のこい名くそなうれて菊れ酒
 ねまうそそわくくかりく小菊の酒
 重成 友正 信元 一百 俱秀 宗立 氏吉 催突 重昌 玖也 宣安

大下也

花の香や芥く栲れ菊乃酒
 ねまうく月まわ山落の菊れ酒袋
 十六重うらわ源氏れととあ花
 うのうらわまよ十葉れねさ葉
 よれ菊や皆得く乃酒の友
 ねまき露乃葉かま露や菊れか
 ち世も多んさう袖白よさくの酒
 かなとわさうりまきさ早れとく菊れえん
 くらうらうとまさわらうらに露葉
 白菊ハ伽羅のなみわさうかりれ
 菊水のなうれとすされ露能うか
 成安 喜章 季吟 家信 是雲 宗甫 笑樂 重頼 光任 同 好女

大白此湯よその名や菊乃酒
 同
 淵と淵のうりや菊れけいさ
 政之
 咲菊乃持や今く百花香
 好与
 百葉ハ教とや中なれ菊の酒
 堂
 大白りく文う記菊れ少りいふ
 同
 盃中小袖をくくや菊うさ
 正朝
 仙人をいりかゆさうや菊れ花
 同
 さうぬまの喜淵さくやさく此花
 同
 行やして見と進言く山は草
 同
 袖の香やこわれ幸菊の露
 清下
 星の情よにさうらうや菊れ枝
 同

客人の山人くせん宿乃菊
 昌房
 花の兄と程うりやり中草
 同
 美者者れんけく早やこうぬ菊
 同
 監觴のなうれハ露う菊れ淵
 同
 けうけう野菊れ香や小らり酒
 同
 殘菊れ白いや酒の二百あひ
 同
 合山う園と福地乃菊れけり
 同
 書老の遊つかかき菊の淵
 同
 子秋紙あうりくさわや菊れ文
 立園
 菊とくむけれを湯や花の露
 同
 せ垣ハ菊れうりりのうせに
 同

つじ袖乃少わいれ玉々菊の香
 あり子世れ人こそかりし世の菊
 うわくこれ酒を造よ葉を乃まきく
 尽せぬ天乃らんゆき菊れ露
 空陽れ酒こそ菊の作りし夢
 子世れつらありて衣結る菊の香
 じくらんや花瓶とらる菊乃酒
 盃や小袖と袖きし子世らん草
 同 同 同 同 同 同 同

紅葉謝

楓翹りしこいささきりお紫謝 貞徳

廿四十八

山海乃採物なりまらわりのみら謝 同
 酒々々わらみみ解てわお紫謝 徳元
 汁々々せしよのう名としを根謝 長吉
 水座ハあるれ綿くともみら謝 昌意
 多神みも向んわらわお紫謝 定時
 いささいわらわお紫謝 重頼
 以膳りも謝や酒下りお紫謝 方成
 浪み謝てありらるらわ花のみら 定重
 料理せわわらしを秋のまらら謝 式是
 酔とさすの紅う膳のお紫謝 但秀
 かつわら秋のいろくわ紅葉謝

これも又水生あわもみら耐
 波乃花あまもろもめや根耐
 細れもわとくもあつらお葉耐
 茎細の中や後かんもみら耐
 木すもよりも紅葉んもせん耐もみ
 枝折る水ういひとれお葉耐
 木より花うもろやあれもみら耐
 ひろ河多波ぬいろら紅葉耐
 河さうろ川流の耐やお葉耐

宗房
 貞宣
 朝次
 俊
 正朝
 政之
 常辰
 昌房
 三圃

木實

木れ実もしてまみ花なりそ新葉思
 木丁もより花もくまのまも抽い
 木かきくけとくろてそいらははてと
 多人のさうらうやとゆ一掃れ
 昔程うわあや右だも印しり書
 心なり花もいも秋さるるさくし
 五位踏れわひいさわれ木陰う那
 いっしんももくろり花もらうや後れら
 ねらうく後さそらもわうう若乃座
 木れ実も人交れ乃あや丹波葉
 木のほろる葉れ二もや姉いり

宗法
 幸和
 貞徳
 清成
 一惠
 貞盛
 茂与
 私言
 普英
 信元
 重山

山後とくわわーらぬらわら
 其も味嘗のくわわや持の平
 花よりもゆいほくわや事松極
 我らくも久くわわねねらら
 秋よりわ事此葉より愛あ庭傍
 伊賀わらぬいふ西くく丹波粟
 人心をわもさくわ本練うと
 花よりわ葉もいひてわ砂乃わ
 あくくわわ大まにわくく和持
 らう人の右勢わはらうく持の平
 清本持はう人の雲井の庭本ふ
 常之
 林麻
 宗立
 意相
 重山
 廣通
 俊安
 好子
 同

次五十一

くらく此葉わらうく事持の平
 似相せはくこの本なりよ始く
 しく事此葉わらうく持の平此皮
 い勢わ勢のこもくくりのこも
 昌房
 同
 立園
 同

秋田

わらわらわらわらわらわらわら
 まいやくてくは苦くそわり田
 原くろ痛くそ強くはくく事持
 りまきくして信うく小田の捨んが
 鳥とくは小田の捨んがこれなりこも
 徳元
 氏重
 玄佐
 人身
 宗信

くらしきしとせむや左座此一番子
 のえ富しとせむや信於や山がし
 けしとせむや山がしとせむや
 けしとせむやとせむやとせむや
 ら矢も山小田れ信於や山がし
 大風の吹まよあしとせむや
 とのつとせむや山小焼果れ種うか
 秋乃田やあしとせむやの御あし
 殺生しとせむや山田の信於や山

栄之
 順忠
 正信
 重昌
 昌把
 常倫
 嶺利
 常辰
 立園

九月盡

子向山錦や秋の玉うかけ
 秋のけしとせむやとせむや九月の園
 大言れ秋とせむやとせむや

康吉
 立園

雜秋

けしとせむやとせむやとせむや
 けしとせむや香於れ種秋乃風
 芦乃種とせむやとせむやとせむや
 けしとせむやとせむやとせむや
 りしとせむやとせむやとせむや
 けしとせむやとせむやとせむや

幸和
 徳元
 繁栄
 三直
 厚成
 自徳

秋風やうら吹くは葛んゆ
 下よりや敷ひあつと清英
 祭わつ所や京れと沙霊
 秋風母在すり紙もろ木賊の
 心ゆすてう旅終えくも秋茄子
 ころ年れ行くととびるも秋茄子
 鳥肌の身やわつとじり玉子酒
 弟も木もまよと秋や盛衰記
 物産れきうそを記終えわつ
 一とこの中羽やのと秋の日記馬
 好の目やせれきうと乃蟻の盤

友春
 知徳
 同
 忘
 二道
 親宣
 三辰
 義久
 正辰
 重良
 信親

秋五十二
秋五十三終

舟への葉いりまう秋り祭れ餅
 それ京の本穢みうとろ露乃玉
 鴨やとらうそを記秋茄子
 くの身や鳥肌あつと秋の風
 孟蘭盆れ礼ハ十方且那うれ
 葉れ葉らるや岸りハ綿柳れ紫
 秋風のはくさ記せり忘障子
 ねあつとまもれや人の木も
 水乃精のりる木を勝れ蛙うね
 位れ江の市乃とらと貝れ
 言さゆり秋れ露もろ乃蟻乃銘

常信
 満長
 嶺利
 同
 常辰
 同
 好子
 同
 友貞
 同
 正朝

娘の目此乳ハ一寸法師ノ乳
秋乃日ハ一そくあう西い

同 主園

